

# ローマ字ってなに？

身近にあるローマ字ですが、その歴史やへボン式との違いについては、誰も教えてくれなかったのではないのでしょうか。そこで、ローマ字について説明している本の中から、私が最も納得のいく説明をしている小泉清裕先生（私の友人でもあり、最も尊敬している研究者・実践者の一人）の本から、私なりにまとめてみました。

日本人ならだれでもローマ字を習っているはずですが、時代によって取り扱いの時間や方法に変化はあるのですが、現在では小学校 3 年生が国語の時間に学習することになっています。

ローマ字というくらいですから、もともとはローマの人の文字ということでしょう。ローマ人が使用した文字、すなわちフランス語やイタリア語、スペイン語、英語などの文字のもとになるラテン語と呼ばれる言葉を使う人たちの文字ということになります。ラテン語を使う人たちがローマにいたことからローマ字と言ったのでしよう。ローマ字は日本以外ではラテン文字(Latin alphabet)と呼ばれています。

このローマ字と日本とのつながりは、16 世紀から日本に入ってきた宣教師と関係しています。日本語のわからない宣教師たちが、日本語を覚えるために、聞いた日本語を自分達の使っている文字、すなわち「ローマ字」で書いていました。そして、ポルトガル人の宣教師はポルトガルの書き方、オランダ人宣教師はオランダ語の書き方で、そして、イギリス人宣教師は英語の書き方で日本語を書いたのが始まりだと考えられています。たとえば、「し」という日本語を書く場合、ポルトガル人は「xi」と書き、オランダ人は「si」と書くはずですが、それをイギリス人やアメリカ人が書けば「shi」という文字になります。それぞれの国によって書き方は違いますが、元の日本語は同じ音です。現在、小学校の教科書にはローマ字表がのっています。今では英語の書き方がもとになっている「へボン式」も残っています。江戸時代からの蘭学（オランダの学問）の影響が今の小学校の教科書の中にまだ残っているような気がしますね。

小泉清裕『現場発、小学校英語』文溪堂

どうでしょうか。大変分かり易い説明だと思います。スペイン語を学んでいる学生から、スペイン語は「日本語読みに近い」と聞いたことがあります。おそらくスペイン語では「she」ではなく「si」と綴っているためではないのでしょうか。（スペイン語を学んでいる学生がいましたら教えて下さい！）面白いですね。因みに、沖縄出身の有名な英語教育学者に比嘉正範（ひがまさのり）先生という方がいます（だいぶ前に亡くなりました）。アメリ

カのハーバード大学で学んだ人ですが、彼の名前はアメリカで一度も正確に読まれたことはないと話していました。Higa（ヒガ）のhiはHigh SchoolのHi（ハイ）ですから、いつも「ハイガ」と呼ばれていたそうです。Hegaと綴っておけばアメリカでは「ヒガ」と読んでくれたかもしれませんが、そうすると日本では「ヘガ」と読まれてしまいますから面倒ですね。